

館の運営方針	佐倉市公民館活動計画の基本理念を踏まえ、地域の実態や動向に立脚し、住民の自主活動を育て援助しつつ郷土づくりの意識を一層高める。また、各人の生活課題をみつけ、生涯学習の場としての適切な運営に努める。
ジャンルの目標	子どもたちの学習機会を提供する。地域交流や仲間づくりを通じて、佐倉の地域素材を取り入れた体験学習で、「つくる楽しさ」「わかる喜び」「できる自信」を育むこと、職場体験学習により社会的自立や豊かな人間性を育むことを目標とする。

★個別事業評価一覧

No.	事業名	事業の内容
①	佐倉っ子塾 志津子ども教室	○子どもクッキング教室:地域住民の協力のもと、季節に合わせた料理作りを通じて、自分の手で作る喜びを学び、食への関心を高める。○手づくり工房:佐倉の地域素材を織り交ぜながら、体験や学習を通して、子どもたちの「つくる楽しさ」「わかる喜び」「できる自信」を育む。○子ども自然教室:自然体験学習や印旛沼等の自然環境を学び、環境意識を育む。○子ども理科実験教室:理科実験等、体験学習を通して子どもの研究心や想像力を育む。
②	ちょこボラ(ちょこっとボランティア)	青少年が職場体験学習をすることで、地域のひととのふれあいや公民館で働く職員と接することを通して、社会的自立や豊かな人間性を育むことを期待する。

★ジャンル総合評価

個別事業における、ねらい・運営方法・学習テーマ・対象者・講師・資料・広報等、事業全般			
企画	企画段階での課題と解決策	A	A:各個別事業の想定課題は正しかった。 C:個別事業の想定課題が違っていたところがある。 B:各個別事業の想定課題はまあ正しかった。 i:途中で変更した。 ii:そのまま進めた。
実施	実施しての課題と解決策	B	A:各個別事業の想定課題の解決は進んだ。 C:各個別事業の想定課題とは別の課題が出た。 B:各個別事業の想定課題は解決はまあ進んだ。 i:別の方向に進めた。 ii:そのまま進めた。
点検	点検しての課題と展望策	「佐倉っ子塾志津子ども教室」は、「子どもクッキング教室」「子ども手づくり工房」「子ども自然教室」「子ども理科実験教室」の4つのジャンルに分けて行っています。28年度とほぼ同じ内容なので、更に内容を見直して充実していく必要があると考えています。「ちょこボラ」は、志津地区の学校へチラシを配布したり、新聞折り込みのしつこうみんかんだよりで募集していますが、応募がすくないため、事業の周知方法を検討する必要があります。	
改善	次年度への課題と展望策	B	A:事業拡大。 D:目的達成により終了。 B:現状規模での継続。 E:統合・改善・その他 C:事業縮小。 ()

総合評価				
A	事業規模 A:適切で成果が得られている。 B:課題あり、成果が得られている。 C:課題あり、成果があまりない。 D:成果が得られていない。 E:現段階では判断できない。			
	<table border="1"> <tr> <th>成果</th> <td>「佐倉っ子塾志津子ども教室」では、体験学習を通して学ぶ楽しさ、作り上げた達成感・自信を培っています。アンケートを見ても、「うまくできて楽しい」「おもしろかった」等出来た喜びや「また参加したい」等が記入されており、満足した様子がうかがえます。 「ちょこボラ」は、職場体験学習を提供することにより、働くことの意義、社会的自立心を養う一助となっています。</td> </tr> <tr> <th>課題</th> <td>「佐倉っ子塾志津子ども教室」については、多くの子どもたちとの交流を促進させるため、開催時期、内容等を検討し、企画立案していく必要があります。「ちょこボラ」は、参加者が増えるように、学校との連携を図っていく必要があります。</td> </tr> </table>	成果	「佐倉っ子塾志津子ども教室」では、体験学習を通して学ぶ楽しさ、作り上げた達成感・自信を培っています。アンケートを見ても、「うまくできて楽しい」「おもしろかった」等出来た喜びや「また参加したい」等が記入されており、満足した様子がうかがえます。 「ちょこボラ」は、職場体験学習を提供することにより、働くことの意義、社会的自立心を養う一助となっています。	課題
成果	「佐倉っ子塾志津子ども教室」では、体験学習を通して学ぶ楽しさ、作り上げた達成感・自信を培っています。アンケートを見ても、「うまくできて楽しい」「おもしろかった」等出来た喜びや「また参加したい」等が記入されており、満足した様子がうかがえます。 「ちょこボラ」は、職場体験学習を提供することにより、働くことの意義、社会的自立心を養う一助となっています。			
課題	「佐倉っ子塾志津子ども教室」については、多くの子どもたちとの交流を促進させるため、開催時期、内容等を検討し、企画立案していく必要があります。「ちょこボラ」は、参加者が増えるように、学校との連携を図っていく必要があります。			

ジャンル	青少年教育
事例発表の事業	佐倉っ子塾 志津子ども教室 理科教室

★公民館運営審議委員意見

総合評価	委員①	<p>★ジャンルについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の小中学生を地域で育てると意味で、大変良い企画と思います。是非、継続でお願いいたします。 ・高校との連携については、佐倉西高校に限定せず、広く佐倉市内の高校に声をかけてはいかがでしょうか。 <p>★事例発表の事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気パンづくり講座については、楽しみながら自然に理科の面白さが体験できる良い企画と思いました。今後も、是非継続でお願いします。
	A	

総合評価	委員②	<p>★ジャンルについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの体験学習の機会が準備されてよい学習機会になっている。 <p>★事例発表の事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異世代交流ができる機会としてとても良いと思う。 ・子ども教室は改善しながら取り組めているので充実した内容になっている。 ・ちょこボラは、もっと多様な機会を準備したり、希望を聞いたりして活動の幅を広げる必要がある。
	B	

総合評価	委員③	<p>★ジャンルについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ①志津子ども教室のクッキング教室は学んだことを家庭でも取り組めるよい企画である。 ②ちょこっとボランティア <p>キャリア教育という意味からももっと拡大し内容を充実していったらどうか。</p> <p>★事例発表の事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科離れ、理数はなれと言われて久しい。子どもの興味、関心が意欲や好奇心を育てると考える。ダイナミックなものをこれからも取り組んでほしい。
	A	

委員④		<p>★ジャンルについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 内容によっては定員割れやマンネリ化しつつある問題を踏まえた、今後の取り組みに期待します。 実施時期、内容について見直し周知方法を検討していく姿勢の重要性を感じます。 子どものアンケート結果による満足度の高さを糧に、主催者には今後も頑張っていただけだとおもいます。 <p>★事例発表の事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな講師の発掘についてはどこも直面している課題であると感じました。 募集方法や募集時期、開催時期を変えた、新規受講生の開拓に手腕を発揮されることを期待します。
総合評価	A	

委員⑤		<p>★ジャンルについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもが増えている地域として青少年教育は特に注力すべきと考えます。 事業の内容はとても良いものですので、参加者が少ないことについて周知不足を認識されていますので、募集や告知については次年度に期待します。 <p>★事例発表の事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の方と交流をしながら、学校とは一味違う体験型の事業は是非継続を希望します。内容は大人でも興味を持つものなので、送り出す保護者の目を引くようなチラシやポスター・告知方法を考えても良いかもしれません。
総合評価	A	

委員⑥		<p>★ジャンルについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 知らないことに接した時の驚きや喜びによって、新しい視野が開けます。とくに自我形成過程において、自身が成長していくためには特に「重要な要素」になります。より多くの、そしてより幅の広い出会いの場を提供していただきたいと思ひます。この事業には、何よりも学校や家庭では出会えないことに出会えるという「魅力に満ちた事業」が用意されています。 志津こども「体験」教室は、約8ヶ月間を通して開催されていますが、募集から講師確保、授業準備、実施等運営全般に相当のエネルギーが必要と思ひますが、少年期の体験の重さを思うと、ぜひ担当の方を始めとして、頑張っていたいただきたいと思ひます。 リピーターが多い、というのは喜ばしいことですが、それによって新たな参加者の拡大が阻害されてしまうのも好ましくはないと思ひます。運営上、極めて難しい問題だと思ひますが、共に対応できるような道も探していただければと思ひます。 「ちょこボラ」事業では、事業の意義の高さの割りに参加者が少ないという悩みがあるようですが、気にする必要はありません。何よりもその場が設けられていることが大切だと思ひます。どのような参加意識であろうと、来るものは拒まずで対応していただきたいと思ひます。参加者の多寡で評価される事業ではないと判断しています。 なお、このような場があることを常に情報発信するとともに、特に学校等と連携を図りながら、職場体験環境づくりを更に進めていただけますようお願いいたします。 <p>★事例発表の事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「志津こども教室」 「わくわくするような講座の連続です。自分の少年期にこのような講座があったら、と思ひます。科学でアイスクリーム、電気パン作りなど、興味津々の体験教室にワクワクしている子どもたちが目に浮かびます。 学校教育では「体験」できない学習なのかも知れませんが、まちがいない子どもたちは、不思議の国のドアを開けたことでしょうか。開設趣旨として掲げている「楽しさを体験し、異年齢交流や日常生活圏を越えた友だちづくりのきっかけになったと思ひます。 多くの講座で利用サークルが講師となり、活動成果を実践する場として、サークル活動の励みにもなっていると思ひます。 前期終了時には、反省点を見つけ出し、直ちに実践しています。今後も前例などにとらわれず、よいと思ひたことは子どもの目と心を以て実践して欲しいと思ひます。 子どもの心に好奇心を植え付けられるような講座づくりを期待しています。 市民プラザのロビーを活用して、「成果品」の展示を行うなど、子どもたちが「したこと」を、自身で情報発信する場を設けてもらいたいと思ひます。(もう、しているかも知れませんが…)
総合評価	A	

委員⑦		<p>★ジャンルについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 比較的、成人や高齢者の利用が多い公民館ですが、児童・生徒・学生を対象に事業が組まれ今後も継続してください。公民館(事業)に興味を持ち、そこでの活動で知り合った職員や友達や指導者との繋がりも貴重であると思ひます。 <p>★事例発表の事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童や生徒の興味・関心がテレビゲームやスマホ等に向き、塾通いや習い事と言った生活のなかで、地域の人から物づくりや実験等を学ぶ機会を得る事業は、この事業の趣旨を達成していると思ひます。
総合評価	A	

委員⑧		<p>★ジャンルについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ちょこボラ(ちょこっとボランティア)において、参加者数が3名であるが、(大学生2名、高校生1名)実施時期が夏休み期間にも係らず募集方法は「しづこうみんかんだより」の10/1号に掲載となっている。募集方法に検討を要します。 <p>★事例発表の事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> 佐倉子塾「志津こども教室」では、学ぶ楽しさ、作り上げた達成感・自信を培っておりアンケートを見ても楽しかった、満足したと回答しており効果があったと見受けられます。 今後も子どもたちに体験学習と友達づくりの機会を提供されますことを期待します。
総合評価	A	

委員⑨		<p>★ジャンルについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民の協力のもと、「不思議な世界」を体験した子どもたちは、日常とは違う新たな交流をすることで、より貴重な体験をしていると感じる。強く継続を望む。 <p>★事例発表の事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回からの改善点に、担当職員の細やかな配慮が見られる事を評価したい。 課題とされている講師の高齢化について、この団体が新しい世代に引き継いでいくような働きかけも必要かと考える。 子どもの作業進行の偏りの原因が年齢だけだとするならば、班分けを工夫して解決するのでは…。事例発表でおっしゃっていたように、理科実験とクッキングの違いが曖昧というのは、問題ないので大丈夫だと考える。
総合評価	B	

委員⑩		<p>★ジャンルについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 「志津こども教室」は4つの事業内容があり、子ども達が地域社会の中で作る楽しさを体験し、健やかに育まれる環境づくりを提供されており、すばらしい。 「ちょこボラ」は、参加者を増やすために、これまで以上に学校へのPRが必要かと思う。 事業の継続を願います。 <p>★事例発表の事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> 手作り工作・クッキング・理科実験など、子ども達にとって興味深い体験の機会を与える場になっている。また、地域の方々の参画を得て、異世代交流や子ども同士の触れ合いの場にもなっており、さらに子ども達に生活体験や自然体験の機会を与える健全育成の事業でもある。今後も子ども達に関心の高い内容を考えて事業を進めてもらいたい。
総合評価	A	

委員⑪		<p>★ジャンルについて 志津公民館で行っている 青少年教育「ちょこボラ」は中学生、高校生を 対象にしている 他の公民館にはない ユニークな 企画だと 思います。職場体験の学習から 社会的自立心や 豊かな人間性を育む大変良い 機会に成ります。学業に支障のない範囲で 継続、発展をして欲しい。</p> <p>★事例発表の事業について 小学生を対象としている志津子供教室「電気パンを作る」は、理科実験教室を通じて「不思議な世界」への発見に挑戦する機会を提供し、体験学習として、有意義な企画と思います。 事例発表の時、実際に実験を行って貰えたら、なおよかったと思います。</p>
総合評価	A	

委員⑫		<p>★ジャンルについて ちょこボラについて ・職場体験は中学校ではよく行われていた。高校や青少年での様子はわからないが、(災害時などとは違う)地域でのこのような試みは意味があり、貴重なものだと思う。行政と連携してでもぜひ継続をお願いしたい。</p> <p>★事例発表の事業について ・リピーターが多いこと、子供達が喜んでいる姿もうれしい。夏休み実施希望への対応の検討をお願いしたい。(発表中の「班構成やほかの点での変更」話は納得できた。) ・ちょこボラはこの会の学校代表委員の力も借りて、先生方生徒への啓蒙を図ってもらえないだろうか。</p>
総合評価	A	

委員⑬		<p>★ジャンルについて ・事業名の「ちょこボラ(ちょこっとボランティア)」は理解できません。(違和感あります。)ボランティアの意味は『その事に自主的に参加する、行動する(主に無報酬)』とあります。もっと神聖に使っていただきたい。ちょっとお手伝いするのはボランティア活動とは言えません。</p> <p>★事例発表の事業について(パン作りは継続してOKです。) 「おいしい電気パンを作ろう」 ・私は自宅でホームベーカリーでパンを焼いている(10年間)が、パンは「窯」「ガス」「電気」で焼き上げるもので『電気パン』などの日本語はありません。 「美味しい食パンを作ろう」「メロンパンを美味しく作ろう」ではいかがですか。</p>
総合評価	B	

委員⑭		<p>★ジャンルについて ・②のケース同様、青少年期に広く体験することは、子どもの将来のために重要なことである。</p> <p>★事例発表の事業について ・継続することを前提として、学校とタイアップすることも考えてよい。「ちょこボラ」については、毎年マトをしぼって実施してはどうか。高齢の講師は、むしろ積極的に活用すべきと思う。</p>
総合評価	A	

委員⑮		<p>★ジャンルについて ・子供達に自主性や交流の場を提供するとても大切な取組みである。継続すべき事業である。</p> <p>★事例発表の事業について ・理科実験で電気パンを作る発想がとてもよい。また、会場内に実験道具を展示したことは高く評価できわかりやすい発表だった。今後も続けてほしい。</p>
総合評価	A	